



《発行所》

青山同窓会

〒951-8127 新潟市関屋下川原町 2-635

新潟県立新潟高等学校内

TEL 025-266-5268

FAX 025-266-5268

《編集・発行人》

長谷川 義明

《印刷所》

オリオン印刷株式会社

〒950-0963 新潟市南出来島1-19-1

TEL 025-283-2151

FAX 025-283-3804

ご挨拶

会 長

長谷川 義明 (61回)



今年もこの三月に新潟高校を卒業された約四〇〇名の卒業生を新しく同窓会員としてお迎えしております。毎年の恒例として卒業式の行われる当日の朝、卒業式の前に同窓会への歓迎のご挨拶を申し上げ、卒業生代表から入会の宣言を頂いております。キラキラと輝く若々しい眼をした大勢の若者たちを見てみると本当に頼もしく、洋々たる前途を感じさせてくれます。これから大学への進学をはじめと

してそれぞれの人生をたくましく開拓していかれることでしようが、同窓生そして同窓会の存在が彼らの人生にとっていくらかでもお役に立つことができれば嬉しいことだと念じております。

去る五月頃に久しぶりに弥彦山(六三四メートル)にのぼり山頂からの景色を眺めました。眼下に広がる蒲原平野には見渡す限り一面に水を張った早苗田が続ぎ、流石に穀倉地帯といわれるにふさわしい景観でした。一〇月に予定されている巻町との合併が実現すると新しい新潟市は約三万haの水田面積を持つ市となりますが、二番目に大きい水田面積の市町村が郡山市と八郎潟干拓地を持つ秋田県大潟町の約一万一千haですから、い

かに新潟市が水田に特化した地域であるかがわかります。この特色ある水田地帯が有機生産など環境問題にも対応した生産性の高い農業地帯として活用されることが政令指定都市新潟の大きな課題でもあると感じております。

弥彦山の隣の気象庁のドーム型のレーダー基地のある多宝山(六二三メートル)は旧岩室村の地内にありますので、すでに新潟市内の山であります。十月には角田山(四八一メートル)も新潟市内の山ということになり、いままで高さ約五〇メートルの砂山しかなかった新潟市に、一挙にこれら高い山々や新津の丘陵地帯が含まれることになりました。それに伴ういろいろな困難な問題もあると思われ、多くの市民が気軽に利用できる整備によって緑豊かな山の景色や気宇壮大にしてくれる山からの眺めなどを楽しみたいものだと思えます。一つの市は一つの学区である

青山学術文化講演会開催のお知らせ

青山同窓会会長 長谷川 義明

1. 開催の目的

新潟高校同窓生で、各界で活躍しておられる方々から、有意義なお話等をいただく。一般にも公開し、関心ある市民に、学術文化に触れる場を提供する。

2. 開催日

平成 17 年 10 月 22 日 (土) 13:30 ~ 16:00

3. 会場

新潟県立新潟高等学校 視聴覚教室 (駐車場はありません)

4. 定員及び参加対象

400 名 青山同窓会員、新潟高校生徒及び一般市民

5. 参加費

入場無料

6. 講演予定者

佐藤幸治さん (64 回卒)

京都大学名誉教授

演題:『『憲法』と『国のかたち』

憲法学者であり、司法制度改革審査会の会長を歴任されました。

田中純夫さん (75 回卒)

新潟市自治振興課課長

演題:「(仮) 1985 年、カカサイジモンカ (6138 m) 登頂談」

当時未開放だった中国青海省の山への挑戦を、スライドを交えて紹介していただきます。

7. 申し込み連絡先等

青山同窓会事務局へ電話又は FAX でお申し込みください。

青山同窓会事務局 電話・FAX 025-266-5268



という原則から行くと、この広い新しい新潟市の全域から新潟高校への受験が可能となり、かつて旧制新潟中学の時代がそうであったように広い地域から優秀な生徒が競って入学を

目指す新潟高校でありつづけて欲しいと願っております。そのために同窓会といたしましては、同窓会への支援を行いたいと思

一人お一人のご活躍がまた母校の魅力を高めることにつながるのだと思えます。同窓会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

けんたとゆうき

仕事を通じ感じている事

新潟高等学校PTA会長

高橋 正良 (79 回)



けんたとゆうきは保育園時代からの幼なじみ、小学三年生の同級生たちです。二人の家はすぐ近所、家の近くの公園で毎日一緒に遊びます。家でゲームなんかをするよりは、棒を持って松林で探検ごっこをするのが好きな男の子たちです。家の中でテレビゲームばかりする子供たちが多い現代では、珍しくわんぱくで楽しい子供たちです。

けんたは短髪で走るのが得意、いつも運動会では二番になる健脚です。どうしても勝てない相手がいることが、彼にとつては唯一の悔しいことなのです。

ゆうきは長髪でかっこいいから女の子に持てるのが自慢のオマセな子です。甘やかされて

新潟で放鳥したウグイスが五日後に札幌で回収されたり、三年前に北海道松前で放鳥したクロジが回収されたりします。

けんたとゆうきは、少しでも隙を見せると捕獲した鳥をつかもうとし、「羽をちょうだい」とせがみます。うっかりすると羽を引きぬこうとします。足環を付ける作業の途中で抜け落ちた少しの羽は、すべて二人のコレクションにしています。

特にけんたは、次の見回りの時間まで待っている気持ちを抑えられず「今、何時？」と三分おきに何回も聞いてきます。けんたの兄はシャイな子で、ほんとは弟より鳥に強く引かれて

二人の様子を見て行くだけの対照的な男の子です。

けんたが用事で両親や兄弟と一緒に出かけた午後、ゆうきは一人ぼっちで公園にいます。ゆうきは、けんたほど鳥に興味がある訳ではありません。そんな時ゆうきは、私と一緒に調査をする学生に甘えます。べたべたとくつき回り、学生の耳や腕に噛み付いたり、髪の毛を引っこ抜いたりします。さすがに学生

青山同窓会新年会報告

昨年より形式が変わりました新年会。今年は、二月十八日(金)グランドホテルで百三十二名の同窓が集まり開催されました。今年の企画、君英夫トリオ「ピアノ君英夫(67回)ベース前



も我慢の限度を超えてしまい、ゆうきをビシッとしかります。こんな二人と一緒にいるので自分の少年時代をよく思い出します。虫や鳥を追いかけ回り、一日中松林や砂山をかげずり回りました。いたるところに遊びがあり、同時に危険がありました。けんたとゆうきは、私が小さな生命(いのち)をたくさん奪っていた子供のころを思い出させてくれた大切な友達です。

田和夫(79回)ドラムス長谷川道夫(75回)のジャズ演奏が、会場を楽しい雰囲気にくれくれました。演奏終了後、新潟市長篠田昭さん(75回)の挨拶・乾杯(わずか五分の滞在で



した)。その後は、あちこちのテーブルで旧交を温めたり、名刺交換を行ったりなど、同窓の和が広がっていききました。昨年度と同じ立食形式でしたが、椅子を多めに用意したせいでしょうか、落ち着ける雰囲気となり、料理もほどよくなるなど、新形式の新年会も定着した感がありました。

東京青山同窓会 2005年度 新人歓迎会・講演会

六月十七日(金)東京全日空ホテルで、今春卒業した113回生を迎え新人歓迎会が開催されました。今年の新人なんと四十五名も参加してくれました。新人(学生)には、懇親会の補助を出しますので、事務局は嬉しい悲鳴だったようであります。新人には今回の出席で終わらず、東京にいる間は、是非また参加をして欲しいと先輩達は強く思った次第です。第一部の講演会では昨年まで外務省で、海外の大使館勤務も長かった、松井

啓(67回：現在杏林大学総合政策部客員教授)氏が「国際社会と日本」というテーマで、ご自身の豊かな経験に基づきお話をされました。最初の赴任地、ソ連モスクワでの実話は、まるで映画「007」のようでありました。講演の最後、若者へのメッセージとして「一、強靱な精神と肉体をつくる。二、昨日より今日、今日より明日という向上心をもつ。三、日本のことをもつと勉強して欲しい。」と3点挙げられ、自己主張の仕方、特に新潟の人は、話さなくてダメだ(国際社会では通用しない)とエールを送って下さいました。



第二部は懇親会、東京青山同窓会名誉会長斎藤伸雄(44回)氏の名コメントのあと乾杯、新人達も最初緊張していましたが大先輩(孫と話をしているようだとの感想多し)が優しくいろいろな話をして下さり、徐々に



武藤先生 (55回) を訪ねて

(会報編集委員)
岩原 朋子 (93回)

今回は、新潟大学医学部長から新潟大学長を歴任され現在は新潟国際情報大学長をされている武藤輝一さんを訪問しお話を伺いました。

実は武藤さんは旧制新潟中学(今の新潟高校)の学生だった時分からこの道を目指していたわけではなく、いくつもの

同窓生訪問



雰囲気になれ先輩・同期と交流を深めていました。最後の「丈夫」、星野憲昭(82回)氏がステージに上がりきらないくらいの新入四十五名と一緒に大合唱、元氣よく会を締め下さいました。さあ、来年は何人の新人が集合するのでしょうか。

の人生の分かれ道で決断し、それが当初の希望通りではなかったとしても、そこで最善の努力をしているうちに辿り着いた場所なのだという印象を受けました。

お父様を早くに亡くされたことで、お母様への孝行の気持ちかが判断に大きく影響されたということもあるのかもしれない。

終戦後、武道が禁止され、それまで一生懸命だった柔道部の活動が出来なくなり、その分の熱意と時間を勉強に向けた為に自然に成績優秀となったので(こころ辺がちよつと凡人とは違いますが)旧制新潟高校へと進むことになりました。大学は工学系に進みたかったけれど当時新潟には医科大学(新潟大学医学部の前身)しかなかったため、成績優秀で親孝行な武藤さんにとってほぼ選択の余地なく医科大学に進学されることになりました。(進学後一年くらいはぶつぶつ文句を言っていたという話を聞いて少しだけ親近感を覚えました!)また、医学部卒業後外科を選択したこと、まず就職せず大学院に進み大学に残ることなどの進路は本人の希望というよりは周囲の要望によるところが大きかったようです。

教育実習を終えて

中村 愛 (110回)

四十一歳の若さで教授に昇任、その後も輝かしい経歴をお持ちの武藤さんですが、必ずしも自分の思う通りにはならない中、立場や考えの違う人々を巻き込み、自分の考えをきつちり相手に伝え、曲げるべきでないことは曲げずにきたことで信頼を得てきたのだと思います。最後に今の新潟高校生に向けて、

「学生のうちにこれをやりたいという方向をある程度考えておくこと。視野を広く専門外の教養を身につけるような色々なことに興味を持つこと。また新潟高校出身者はどちらかと言えば遠慮がち人が多いが、自分の意見は自信を持って発言し行動するべきであること。大学を出たら親の世話にならず自立する意志をもって欲しい。」若くして人生の計をお考えになり、ご苦労の多い中を専門知識だけではない幅広い教養、修練で道を切り開いてこられた武藤さんのお言葉を頂き、今回の訪問を終えることが出来ました。

大変気さくなお人柄で、若輩の私たちを玄關までお見送りいただき感激しつつ帰途に着きました。

振り返ってみると、三週間の実

三週間の新潟高校での教育実習は英語教師になるという夢を明確にしてくれるものでした。実習を始める前まで、生徒たちの成長をサポートしながら一緒に未来への一歩一歩を歩んで行ける教師という職に就きたいもの、自分にその適性があるのかについて悩んでいました。そんなとき高校時代の恩師に大切なのは熱意だというお話を伺いました。今回の実習を通してその通りだと感じました。向いている、向いていない以上に

大切なのは、生徒たちのことが大好きで、彼らの力になりたいという熱意だと思いました。それは実習で感じた大きなことのひとつです。

生徒の力になりたい、そして生徒と一緒に時間を過ごすのが好きだという自分に気付いたわけですが、そういった事実が教師として働くことの大きな源になるのだと今感



今年の青陵祭より



同 期 会 報 告

最後の同期会

駒林 行弘 (49 回)

昭和十二年に入学した 49 期です。

赤線の入った帽子を被り、袖に赤線の入った詰襟を着て、編み上げ靴に脚絆をまいて登校したものだ。

習は毎日が新しく刺激的で充実していました。失敗をすること、上手くないかないことの方が上手くいくことより多く、落ち込むことも沢山ありました。毎日の授業のプレッシャーが重くのしかかっていたときもありました。そのような大変なことも多かったのでありますが、最終的に教師になるという決意を固めることが出来ました。それは生徒との関わり合いを通して生徒の成長をサポートし、それと共に自分自身も成長していけることに大きなやりがいと幸せを感じたからです。英語教師になり、生徒たちの成長をサポートし、未来と一緒に創っていききたい、今はそのように感じています。自分の大好きな英語を通して、次世代を担う生徒の力になれば、どんなに幸せなことかと思いません。

今回の実習で実感した教師としての思いを「初心」として忘れずに、人間力及び英語力を磨きながら、生徒の成長を促せる教師を目指していきます。教師としての第一歩を大きなものにしてくれた、指導教官をはじめとする諸先生方、そして生徒の皆さん本当にありがとうございました。

その頃、目の上の人には帽子を脱いでおじぎをしなければならなかった。追越してゆく上級生の後姿に深々とおじぎ、なかなか学校に着けなかった。

あれから六十八年、紅顔可憐の若人も年には勝てず、足腰の弱った者、持病を持っていてる人などで同期会の出席者も減ってきた。今年も皆が傘寿、八十の坂を越すのは大変だという。



そこで、これで最後にしようとする同期会を「白山さま」で開催した。

出席したのは三十一名。先代の宮司が同期だったのでも「白山さま」、最後の同期会も「白山さま」となった。

本殿に勢揃いし、先代長男の宮司が一人一人名前を讀み上げ丁寧な祝詞、これからの健康をお願いして全員で玉串を供えて参拝。神前に供えた「健康守」をいただいて白山会館へと移った。

記念写真を撮って、総会、懇親会とつづいた。

座敷の真中でんと地元有名銘酒が七本ならんでいる。欠席者の寄贈や出席者が持ち込んだものだ。

久しぶりに会う懐かしい顔、すぐに昔にかえる。杯を酌み交わしながら談笑するもの、一升瓶を片手に廻っているもの、それはそれは賑やかな宴がつづく。

そのうち応援歌を歌いだす。毎日、昼休みに校庭で応援団長の指揮で歌ったものだ。海老茶色の旗に A の字を染め抜

58 回生 (東京) 同期会

池田 成義 (58 回)

平成十六年十月二十二日 (金)、58 回生東京同期会 (東京玲瓏会と称している) を、新宿区市ヶ谷の旧安田信託銀行「市ヶ谷ハウス」に於いて開催した。

58 回生同期会は、新潟在住の人達を中心とした会と在京者を中心とした会がそれぞれ

いた三角旗を打ち振りながら。なつかしさで一杯。最後は校歌、

「玲瓏の天仰ぐとき胸颯爽の意気に充ちろー」歌っているとジーンとくるものがありました。

「これで終わりだなんて言うなや」こんな声を聞きながら、気持ちよく酔った同期会でした。

幹事 駒林行弘・外山芳雄・逢坂邦雄・本田正胤・岩瀬喜要 松



東京同期会は昭和二十九年発足、以来連綿として毎年開催され、今回をもって五十一回におよぶ。特に昭和六十年からは、会場は「市ヶ谷ハウス」に定着し、今日に及んだ。

当夜、会する者二十九名、都内、隣接の諸都市からはもちろん、遠く北は仙台市や山形市から、南は高松市や豊川市、さらに新潟からも参加者あり、久闊を叙するものも多かった。

会は午後六時半、渡辺達夫君の乾杯の音頭に始まり、美酒・美肴を摂りつつよく語り、楽しい二時間余りをすごした。最後は渡辺好博君の締め挨拶と、恒例の校歌斉唱、全員写真の撮影をもって終り、来年の再会を約して散会した。(幹事 服部、池田記)



「さんばち会」の集い 『還暦寄席』 古典落語の夕べ

女池 昌雄 (71回)

還暦―それは、社会の第一線から退いて後進に道を譲り、やがて来る終焉に備えて日々を送ることを決意させる。この時に臨んで去来する思い、想いは様々であろう。私の期「さんばち会」は、平成十七年三月をもって全員が還暦となる。人生におけるこの大いなる節目に相集い、来し方を語り、近況を交



換し、これらの暮らしに思いを馳せることもよからうと、会合を計画した。その主題に落語を置いた。

落語には、人生の深い哀歓がある。人の善意を信じる人々がいる。社会の底辺に生きる庶民のしたたかさが折り込まれ、生への執着すら感じさせられることもある。生きることの可能性や視野が次第に小さくなっていく今の我々にとって、落語を友とすることは、生きる楽しみを与えてくれるに違いない。

◆ 新潟県出身の落語家の中でも正統的な古典落語に精進し、進境著しい若手真打として注目されている入船亭扇辰師匠に依頼したところ、二つ返事でご快諾いただいた。

期日は二月二十八日(金)とし、会場は我が期の最初から幹

事の中核として功績のある篠田君の家、「篠田旅館」にお願いした。(篠田君は、先年、交通事故で他界されている。合掌)

◆

当日は、心配された雨も降らず、好天に恵まれた。旅館の玄関先には「還暦寄席 入船亭扇辰独演会」と大きく墨書された立看板、会場の大広間には静かに寄席囃子が流れる中、三十人を超す会員が座に着いた。

出囃子に乗って、師匠が登場する。小柄な師匠が高座では大きく見える。囃子の力である。一席目は「五人廻し」、二席目は「甲府い」。

◆ およそ一時間半の落語を楽しんで後は宴会。二次会は師匠と数人で、ジャブバブ「あどりぶ」へ。師匠のギターの弾き語りも堪能でき、至福のひとつ時であった。

◆

後日、会員から便りが来た。「これから落語に親しんでみようかと思います」「このような会をまた計画してください」と。

還暦寄席を開催した甲斐があったというものである。愉しみを与えてくださった入船亭扇辰師匠に感謝している。

寄稿

「霞たなびく」を巡って

富所 強哉 (46回)

会報第八十号の「俺たちは正しいセンで行こう」と結ぶ関根彰圓さんの文を読んで、改めて手元の国語辞典を見たら、見出しに「どくせんじよう」がなく、「どくだんじよう独壇場」の最後に「本来は独壇場と書きどくせんじよう」と読むとあるだけなのに驚き、時の流れを感じさせられた。

南山に長安の終南山を指す意があるとの解説は、浅学の身には大きな驚きであった。しかし南山にそのような意があったにしても、そこへ紫旗が現れるはずはなく、歌の南山城は不落の南山を象徴化したものと考えるべきであらうか。

◆ 創立六十周年記念の「青山回顧録」や百十周年の同窓会名簿に「独戦場」とあるのはお粗末ということになるか。在学時ドクセンジョウと歌っていたが、その頃も獨戦場だったのだろうか。

往時南山園という名の何かがあったことが臆気だが記憶が浮んだことから、この南山が地名に因るものであるうかとパソコンで検索したら、日本海タワーがその上に建てられている配水場の名が南山であることと、新潟商業学校(現新潟商業高校)に明治三十二年から四十四年までの南山時代と呼ぶ時期があり、その呼び名は現在新潟大学歯学部のある学校町通二番町にあった当時の校舎の裏山(現大病院の位置)が、まだ松林で南山と呼ばれていたことに因るというものが見付かった。

「在校時の歌い方では三番の「船出せしより五十年」は四十年と歌っていたように思う。五十年は創立五十周年の昭和十七年以後に変えられたものであるうが、大正十一年の校歌制定まで校歌のように歌われていたというこの歌の、作歌の時期だけでも知るためにも、原作の歌詞が分かっていると思う者である。」

私たちの頃にはその場所にはテニスコートがあり、こで行

われる四校リーグ(新潟と長岡の中学と商業)などの応援に駆けり出されたもので、また野球は猫山病院(現位置?)の目の下にあったグラウンドで行われたが、誰もが知るようにここは日本海タワー―南山配水場からあまり遠くない所である。このように南山と縁のある試合場はまさに南山城下と言うにふさわしいが、この歌の作られた古い時代にそこにテニスコートや野球場があったかどうかは疑問である。

◆ この歌の作られた経緯を知る人の存在が期待できないと思われ現在の、いっそのことこの「南山城下の独壇場」があつた明治三十八年の、紛糾した三校ボーテレース(前記青山回顧録参照)の優勝旗を奪い返そうと、商業学校へ押し寄せた紛争を指すとの夢物語もあり得よう、などと言ったら不謹慎との謗りを免れられないであらうか。



100 キロマラソンを、 楽しんでいきます！

吉岡 利昭 (68回)

二〇〇四年十月、高知県
の「四万十川100キロマラソ
ン」を完走しました。時間は、
十時間二〇分、六十歳男子
百三十九人中三位ということ
で、大きな大会で、初めて表
彰台に上がり、感激。

100キロマラソンの完走は
十二回目。このコースは、清流
「四万十川」の絶景を見なが
ら、大勢の人の熱い応援もあ
り、ランナーには人気抜群な
んです。変化も多く、二十一
キロが標高六五〇m、五十五
キロが二〇〇m、そして最後
の最後の九十九キロ地点での
一〇〇mの上り坂が、ランナー
の体力と気力を奪います。坂
は、消耗したランナーには地
獄、余裕のランナーには天国
で、ドラマが生まれます。二
年前の東京国際女子マラソン
で、シドニーの金メダリスト
高橋尚子が、三十六キロ地点
から五十mの上り坂で大逆転
されたように。

他に僕が走った100キロマ
ラソンは、応援が熱い「秋田
内陸」、高低差が六十mで走
りやすい「サロマ湖」、雄大

な富士山を見ながら絶景が続
く「富士五湖」。しかし、断
トツで厳しく、苦しい100キロ
は、「野辺山(長野県)」でしょ
う。五十八歳から六十歳まで
三年連続挑戦し、完走。ただ、
「息も絶えだえ」でした。海拔
八八〇mから一九一〇mと標
高差一〇三〇mを約二回も上
り・下りします。特に七〇キ
ロからゴールまでは地獄で、
疲労困憊の中、一二〇〇mも
上るんですから。

僕は、三十五歳から十一年
間、不摂生、ストレス、
深酒で健康を害し、発
熱・体調不良で悩み、
自己嫌悪に襲われてい
ました。ヒョクナこと
から、四十六歳でジョ
ギングを初め、健康と
走り仲間を得ました。

一年後、体重は四キロ
減り、ウエストは八cm
細くなり、背広を全て
新調せざるを得ず、大
出費。しかし、お陰さ
までこの十七年間、六
年前に一回風邪をひい
ただけです。



中年以上の皆さんに、ご忠
告！決して、走ってはいけませ
ん。走ると、体重の三倍が足に
かかり、ケガをします。一方、
歩くのは、体重の一倍の負担で、
体にやさしいからお勧め。下り
階段も、三倍の負担ですから、
ご注意ください。

他に能もなく、趣味もなく、
今も、十一年前たてた《七〇歳
で100キロ完走》という目標に向
かって精進しています。「継続
は力なり」と。

写真は、今年三月の「荒川フル
マラソン」のスタート前に、走
り仲間と一緒に撮ったもの。前
列右から二番目が小生。

NPO法人「新潟野球人」

密かな野望

中野 久 (71回)

NPO流行りである。欲得
が絡まない「大いなる夢」の
実現に向け、多くの人に理解
と協力を求める活動は、個人
ベースでは難しい。

ポーツとしての野球の素晴ら
しさを広く知ってもらいたい
と強く願っておりです。」と野
球人の熱き想いを綴った。

活動資金を集め、領収書を
渡し、銀行に預け、官公庁・
諸団体と交渉し…何をするに
も「個人」での活動には限界
がある。「欲得なしの法人」特
定非営利活動法人」の設立は、
お金はないけど夢がある人に
オススメなのだ。

高校野球連盟の加盟校数は
百七校で全国十二位、部員総
数も十三位と上位。ところが、
だ。甲子園での勝率は全国最
下位、野球熱はあるのに結果
が出せない。キャシイの一言
である。

本年四月五日、NPO法人
「新潟野球人」が設立された。
その名の通り「野球を愛し、
野球で社会に貢献する」野球
人の集団である。青山同窓会・
野球部OB会の湯浅一平会長
(63回卒) 大塚忠雄幹事長(77
回卒)と共に設立準備に奔走
した。入会案内には「…(略)
：振り返れば我々にも、少年
期から現在まで様々な試練が
ありましたが、野球に関わっ
てきたことよって乗り越え
られた場面も時にあったと思
い出されます。(略)：野球
を通じて今までに得たものの
大きさを改めて感じ、生涯ス

何も我々野球人に限らな
同窓会でしばしば話題に上る
のは母校野球部の勝敗。酒が
入れば「野球部頑張ってもら
わんば！皆で甲子園に応援し
に行こー」と盛り上がる。
「なんとかツヨいならんか」「甲
子園めざす会つくるか」等々、
歳を取るほど母校愛と甲子園
熱は高まるらしい。

レイヤーに限らず、元プロ野球
選手、野球少年の家族、野球観
戦大好き人、新潟の高校野球を
憂う人熱意に絆された応援者、
と幅広い百余名。まだまだ会員
募集中、野球を愛せば皆仲間
である。野球の更なる普及と少
年野球の技術向上支援が活動の
軸。となれば「この子らが強い
体と心をつくり、我母校の野球
部で活躍して：フフフ：」各々
母校の甲子園出場を密かに夢み
る会員も実は少なくない。

そこで、青山同窓会の皆様か
ら是非ご理解ご協力をいただ
き、母校と野球部発展の為、新
潟野球人へのご入会をお願い致
します。

新潟野球人西堀事務所
(西堀六番館三階)

電話/FAX
〇二五-二二四-〇八九二

e-mail
gnakano@info-nigata.
or.jp

高校時代は毎日野球漬けだっ
た。社会人になってからも早起
き野球に勤しんだ。今は還暦野
球のルーキー(?)だ。そして、
密かな野望は「新潟高校野球部・
甲子園での勝利」ああ果たせる
哉。

青山同窓会青年会 (青々会)の活動状況について

入田 康夫 (96 回)

以前からお伝えしていたとおり、昨年青山同窓生で比較的若手層である二〇代から四〇代が集まって青々会を正式に発足しました。

「青々会」のHPも立ち上げましたので、ご覧ください。
青々会HP：
<http://www.aoaokai.jp/>

そこで、今年長い冬が終わりを受け、そろそろ桜が待ち遠しい季節になった四月上旬に、新春企画として「青々会第一回お花見大会 in ウォーターシャトル」を開催いたしました。

以前同窓報でも記載ありましたが、信濃川ウォーターシャトルは栗原道平(82期)先輩が代表を務める定期船であり、当日は平日にもかかわらず四〇人余の同窓生が集まりワインを片手に「やすらぎ堤(信濃川)」の川面に映る桜を堪能しました。

約一時間半の周航の後、今度は二次会としてここでも風間まゆみ(91期)先輩の経営する海鮮亭羅言にて、二次会参加組も加わり大きく盛り上がりを見せました。

今現在、登録ベースで会員一〇〇余名となっており、今後も随時会員を増やし若手のOB・OG 同士の親睦を図っていくと、青山同窓会

総会への参加についても依頼していきたく思います。
青々会では随時会員を募集していますので、ぜひ興味ある方は以下にご連絡ください。
申込、問合せ
入田康夫(96期)
【メール】
irigori@yahoo.co.jp
【携帯】
090-2455-5075

恒例の卒業期別対抗団体戦は、六チームがエントリーする中、75回卒業チーム(坂井啓二さん、勝又宣夫さん、堀一さん、富山修一さん、星野雅博さん)が優勝されました。表彰式・懇親会は、東大通

第十九回 青山ゴルフ会コンペ

石原基規(88回) 佐藤万成(91回) 本間正隆(91回) 樋口聡(94回) 向井勉(94回) 青山ゴルフ会幹事団

去る四月十七日(日)、恒例のゴルフコンペを中峰ゴルフ倶楽部にて開催いたしました。三十六名からの多数の参加をいただきました。当日は好天に恵まれましたが、風が強く難しいプレーコンディションとなりました。

はクロス83、ネット71でした。準優勝には小松原雅之さん(85回卒)、3位には坂井泰介さん(85回卒)が入賞されました。ベスグロ賞は、個人の一部でも優勝された坂井啓二さん(75回卒)で、スコアはグロス83でした。

恒例の卒業期別対抗団体戦は、六チームがエントリーする中、75回卒業チーム(坂井啓二さん、勝又宣夫さん、堀一さん、富山修一さん、星野雅博さん)が優勝されました。表彰式・懇親会は、東大通

去る五月二十日、群馬県知事を四期十六年在任した神田坤六先輩が逝去された。先輩は青山昭和二年第三十四回のご卒業で、同期に母校の校長をされた小野塚忠義、同じく渡辺芳雄、日教組で鳴らした山名正二、体操競技の普及功

追悼 元、群馬県知事 神田坤六先輩を悼む

近藤 圓 (38回)

ご縁があった。先輩の在京中の保証人が私の母の兄で、横越出身の元東京帝大教授文学博士の建部遯吾で、私も昭和六年日体に入学後この叔父を保証人としていたので、神田先輩とは千駄谷の建部邸で何度も会い語り合った。

その後昭和十二年、三年頃私は島根県の松江中学に赴任していた。(後年総理になった竹下

登はこの頃に教えた生徒)その時は、神田先輩が島根県勤務となり、経済部企画課長、農務課長を歴任されていた。新潟県人会というのがあり、年二回集まって一杯飲んでしたが、神田先輩はいつも出席し旧交を温めあったものである。

神田先輩は昭和十四年岡山県に転勤し農務課長等、十七年内務大臣官房勤務となり、南西方面艦隊指令部附ボルネオ民政部物資調製課長、昭和二十年大阪府内政部教学課長から終戦後は鹿児島県経済部長になった。

昭和三十五年七月、自民党公認として知事に当選、以後四期十六年間、群馬県政を担当した。石橋を叩いても渡らないと言われた手堅さで、群馬県経済の基盤を確立された。

昭和五十一年七月、任期満了により退任。その後群馬テレビ会長などをつとめ健在であったが、肺炎のため群馬県民に惜しまれて逝去された。ご冥福を祈ります。



OB 会 報 告

「青山体友会」発足の思い出

中川 弘 (58回)

復活青山体友会は第十八回をすぎ、今年十九回を迎えようとしている。青山体友会の発足は昭和十五年夏である。今より六十五年前である。

昭和十五年の夏、鷲尾先生、金井君、中山君、水野君等十名ばかりが、古町の都屋に集まり体友会の発会式をあげた。僕が会長に推された。その記念すべき写真を水野君が復活第一回の会合に持参して、皆に見せた。

思い出深い写真だ。その折、機関誌として「巴」「車輪」を刊行することを決めた。僕がその創刊号の巻頭言を書いた。34回卒故堀保利「巴」よりとある。

古町の都屋とは今の清水フード古町店である。機関誌「巴」は年三〜四回「車輪」は年一回発行である。現役在校生とOBの会、青山体友会が発足したのである。

体友会の発足したのは昭和十五年の夏八月のことである。堀保利先生をお呼びして、古町六番町の「都屋」の二階で会議を開き、型どおりの規約の審議

をし、会長に堀先生をいたいたたのである。この時発起人兼司会をしていた私に、堀先生から「中山君若い人達の集まりだが、酒は出していいだろうか」と相談を受けた。堀先生の頭の中には、目度い体友会の発足の記念の日であるから、皆で祝いたい。祝いの席に酒はつきもの、しかし集まった顔ぶれを見ると、中学を出てまだ二〜三年ぐらいの若者ばかりで、未成年者に酒を出すのは、どうかという配慮があったのである。私は当時の習慣から「ビールくらいならいいんじゃないでしょうか」とお答えした。堀先生は「じゃビール代は、私が出すから」ということで先生のおごりで、我々はビールを飲んで簡単な食事をとり大いに語り合ったものである。私など飲みすぎて、トイレに駆け込み、へドを吐いて戻った記憶がある。45回卒故中山仁「巴」より

翌十六年十二月八日に日米戦争が始まるのである。当時の「巴」「車輪」の一部は私の手元

にあるが、紙質はわるく、謄写版のおそまつなものである。これをお書きになった「堀」「中山」先生は残念ながら、今はもういない。以後ずーと青山体友会は開かれず昭和六十一年十月復

青山柔道部OB会総会

会長 結城 俊郎 (62回)

平成十六年十一月十三日、新潟市東堀通り「錦城閣」において、OB会定例総会が開催された。

現役は人員的に苦勞しているが、県下の大会に於いて、団体優勝もあり、上位をキープ、又個人戦体重別で一位を取ることも多く結果を出してきている。柔道の魅力に少しでも接する人が増えていつてもらいたいものと念じている。

強い現役、盛んな柔道部、OB会の強い絆をこれまでのOB会運営の三本柱としてすすめてきた。

総会では次第に年度的に繋がって、先輩、後輩呼びあつて稽古に参加したり、会に出席したりと交流が進んできた。うれしいことであり、さらに多勢の方々が行事に参加されるよう、お願いしたい。

戦前の先輩の皆さんの中で健



活第一回青山体友会がひらかれて、一回の休みなく今日迄十八回とつづいているのである。体操部は今はないが、この会だけは、つづけたと思っています。

68回よりご案内

作品展 「青山 68 会展～PART II～」

(会期) 平成 17 年 9 月 19 日 (月) ～ 25 日 (日)

(会場) 新潟県民会館 1 F 展示コーナー

(主な作品) 68 回卒の同期生並びに家族の絵画・写真・陶芸などの作品を展示

(幹事) 若松昌弘

同期会 青山 68 会「卒業 45 周年」記念パーティー

(日時) 平成 17 年 10 月 23 日 (日) 午後 4 時～7 時

(会場) 横浜中華街「華正楼本店」(予定)

(会費) 1 万円 (予定)

(幹事) 鈴木裕徳 田中宣男 北村泰作



東京地区青山柔道部OB会

十一月二日、東京地区OB会が開催された。44回斎藤伸雄、52回宮原・浅田、53回佐藤、58回福田の各大先輩が元気で出席され、盛り上がった。中越地震の直後でもあり、故郷の一刻も早い復旧に協力を誓ったことである。

今回の開催は六年振りとなつた、名簿の整理も進み絆も深まり、体制が整ってきたので、今後の活動が期待される。

激励会：青山水友会

江口 良助 (61回)

恒例の激励会、今年は五月十日、顧問の渡辺先生、生徒二十一名、私共青山水友会から大黒会長(50回)、横瀬事務局長(66回)、私の三名、計二十五名で学校の教室を借用して、まず青山水友会が全国で活躍している三〇〇余名の先輩たちの強く深い絆で結ばれている親睦団体であることを説明、同窓会からいただいた激励費を渡し、続いて私共三名からの激励の言葉、大黒会長は、「新入生の皆さんがこの水泳部に入学して青山水友会の一員になられたことを歓迎、中学に入るとすぐに高校受験、高校受験と先生、両親等から厳しく激励?高校に入ると今度は大学受験と気の休まる間もなく、しかし、これからは、水に浸かって泳ぐことでセセコマシイ陸では得がたいゆったりとした安堵感を楽しみ健康な身体、闘争心、負けじ魂を養い、同じプー



ルの水を飲んだ仲間としてのヒューマンリレーションを造り上げて終生変わらぬ友誼を培って頂きたい。若さに溢れ、洋々たる前途のある皆さんが健やかに歓びある日々を過ごされることを願う」、続いて横瀬事務局長から「青山水友会は旧新潟中学と現新潟高校の水泳部に属した人達の親睦団体で大正時代に創設された歴史ある会である。部旗に書いてある言葉「研究心・フェアプレー・友情の文字は書

道の小川和恵先生(101回)の揮毫によるもので、この意味は、自分の泳ぎは自分で研究完成、そして、今の社会は不正が多すぎる、常にフェアプレーの精神を忘れずに、更に水泳を通じ生涯の友情を築いて欲しいというものです。この三つの言葉を忘れず頑張つて欲しい」、最後に私は「皆さんは水泳部に入つて本当に良かったと思う。これから社会に出ると必ず同窓、そして水泳部の先輩後輩の人達に会うことになる。わずかの同窓、水泳部という事がこれからの皆さんの人生に大きなプラスになります。どうゆうプラスかは社会に出ると自然に分かつて参ります、どうかこれから各自の揚げた目標を楽しみながら、勉学に、部活に頑張つてクリアして欲しいと思います」等を述べた。そして先輩たち一人一人に部活に対する目標を尋ねてみたところ、友情を大切に、楽しみたい、強い親睦の輪を造りたい、記録の更新等の言葉が返つてきたので先輩としては先ずは安心。終わりに(1)青山水友会々報にフレッシュな投稿を(2)八月六日(土)総会と交歓水泳大会を予定、楽しみにとお願いと報告で終了。

青山艇友会定時総会開催

渡辺 研二 (75回)

ボート部OB会は、第二十八回定時総会を、平成十七年三月十三日(日)、新潟市内の四川飯店で開催。青山同窓会から長谷川義明会長、県ボート協会から原正雄会長のご出席をいただき、現顧問の早川先生、立川先生にOBを加え総勢十四名でした。

し、若いと思つていたOBがもう還暦と話に花が咲き、大いに盛り上がりました。総会には思い出の応援歌、校歌、敗戦歌といわれた部歌が欠かせないものです。中締めのためともつもる思い出に熱中して時間を忘れて話し込んでいました。

議案審議終了後別室にて懇親会を開催。顧問の立川先生からボート部員の活動報告。昨年新潟県秋季大会で女子クオドルプル(四人漕ぎスカル)が優勝し、十月の中部高校選抜大会(愛知県・愛知池)に駒をすすめ準決勝まで進出した情報を聞き、現役の活躍に喜び、昔話と交錯

議案審議は、平成十六年度事業報告・決算報告。平成十七年度事業案・予算案、役員改選。母校の現役選手への支援体制などです。



青山バドミントンクラブ

総会報告

高橋 裕之 (84回)

平成十七年五月二十八日十八時三十分 新潟駅前ホテル東急インにて、平成十七年度総会が開催されました。総会議事に関しましては、平成十六年度の事業報告と決算報告がなされ、平成十七年度の事業予定と予算が承認されました。

例年とは異なる点で、現在バドミントン部の校旗がないという点で、大会や各種行事で使用できるので作成してはどうか

という意見がだされ、満場一致で承認されました。今年度も、現役員とOBが交流できる場として練習会を年に二回企画いたしますし、そのために使うシャツの予算も計上いたしました。恒例の納涼バーベキュー大会も、参加者を増員するため、会費を下げることにいたしました。会員各位におかれましては、どうぞふるってご参加ください。

改選された新役員は次のとおりです。▽会長佐藤勝弘(65)▽副会長笠原紘洋(68) 渡辺研二(75)▽幹事長(事務局)桜井優(80)▽幹事富田省一(72) 吉田芳郎(75) 佐藤正昭(80) 南場隆広(89) 神林正浩(89) 長谷川聡(102)▽監事大井峰夫(76) 水沼真一(78) ■出席者(十四名) 長谷川義明(同窓会長)、原正雄(県ボート協会会長)、早川亨(顧問)、立川純(顧問)、加藤高弘(58)、佐藤勝弘(65)、笠原紘洋(68)、富田省一(72)、吉田芳郎(75)、渡辺研二(75)、大井峰夫(76)、水沼真一(78)、桜井 優(80)、長谷川聡(102)



今回は、先輩のご好意で、新潟高校の校歌と応援歌のCDを手配いただき、会場にて参加者全員で久しぶりに「丈夫」を歌いました。また、懇親会の最中は、バックグラウンドミュージックとしてかけさせてもらいました。皆さん、大変懐かしい思いで、楽しいひと時を過ごすことができました。

青山ラグビー部OB会 (ラグビー部OB会) 活動報告

小見 毅 (92回)

当クラブはOBが総勢五〇〇名を超える歴史のあるクラブです。その中で、毎年OBの交流、現役高校生の激励を込めて定例

行事を行っております。一つは正月に行う「新年会」、二つ目は「青山ラグビー祭」、三つ目は新潟商業・新潟工業それぞれの

れ、ご本人に就任の挨拶をしていただきました。久しぶりに新潟高校卒業生が就任したということで大変誇りに思いますし、新潟県のバドミントン界の発展のために頑張っていたいただきたいと思えます。会員の皆様もバックアップをよろしく願います。

最後にになりましたが、平成十七年度の事業予定は次の通りです。会員の皆様におかれましては、是非種々のイベントに参加していただけるよう重ねてお願い申し上げます。

- 9月中旬 合宿激励会
- 納涼バーベキュー大会
- 11月中旬 合同練習会
- 12月初旬 年末の集い

- 平成18年 初春 新年会
- ゴルフ大会

行事を行っております。一つは正月に行う「新年会」、二つ目は「青山ラグビー祭」、三つ目は新潟商業・新潟工業それぞれの

青山剣友会活動報告

青山剣友会事務局代表

町田 一越 (95回)

も、大男たちには恐るるに足らずというところでしょうか。盛会のうちに時間となってしまいました。

この会報を見られた方は是非参加をお待ちしております。プレーは出来なくても懇親会の参加だけでも当然OKです。それと、ご父兄の西田様のご尽力によりOB会の情報連絡コーナーが出来ております。ホームページに掲載しておきます。お待ちしております。

報等リアルタイム情報を発信しています。簡単なホームページも会員好意で公開しています。大会参加



青山剣友会 (剣道部OB会) 役員

- 会長 関崎睦男 (45回)
- 副会長 村島 滋 (52回)
- 監査 加藤公則 (90回)
- 事務局 町田一越 (95回)
- 会計 小柳貴裕 (99回)

- 定例会 八月
- 総会 八月
- 新年会 一月二日
- OB・現役合同稽古会 (月一回、第三土曜日)

年二回(七・十二月発行) 総会・新年会のご案内、会の活動報告、会員・母校剣道部の近況を、四百名の会員にお知らせしています。

また、月一回の電子メール通信で、合同稽古の案内・大会速

高校野球への思い

高橋 昇 (73回)

試合に負けるといつともマスクを付けたまま相手に見られないよう涙を流していた。

また、青山剣友会初代会長・故平石恒夫氏(33回)ご遺族からのご寄付を基に優勝カップを作成し、近隣高校との女子親善試合「平石杯」を後援しています。平成十七年八月には第五回目の開催を予定しています。

小学生の頃はとにかく負けず嫌いであつた。しかし、高校に入學し野球部に加入してからはだいぶ状況が変わつた。

負けるのが悔しくない訳ではないが、ある意味で慣れてしまつたようなところがあつた。

一番驚いたのは夏の大会が始まる前に行われた全校生徒による壮行会での校長の挨拶で、「甲子園は無理だと思つて一生懸命頑張つて下さい。」と言われた時であつた。

入部したての頃は確かにあまり甲子園という意識はなく、ただ野球がしたいという思いが強かつたような気がする。

しかし上級生の夜遅くまでの練習や激励にこられる先輩のノックを見てると徐々にではあるが「甲子園に行きたい」という意識を持つようになってきた。

全校応援による白山球場での一回戦で敗退したときには、やはり校長の語つたことは間違いではなかつたのかと思つた。

三年生の残した言葉は「俺たちのやり残した分頑張つてくれ。」であつた。

その伝統が今日に到るまで延々と続いている。スタンドにはいつも先輩や後輩が大勢陣取りその度にOB会を開いているような雰囲気になるのは野球部に在籍していた特権であろう。もうじきまた暑い夏がやってくる。いつかはあの時校長の

ソフトテニス部OB会

渡邊 敏男(59回)

青山ソフトテニスクラブ・戦後復活軟庭OB・懇親会開催

語つたことは間違いであつたとスタンドの上から大きな声で叫びたい。

戦後復活した新潟中学(現新潟高校)軟庭部の第一期黄金時代を築いた面々が、五十余年の歳月を越えて二〇〇五年四月二十四日新潟市イタリア軒で再会し、白木屋で懇親会を開催した。

郡山から勝見聰也氏(56回)、新潟の遠藤昭伍氏(57回)、白根からは森岡哲郎氏(58回)、東京から遠藤欽蔵氏(59回)、京都から渡邊敏男(筆者、59回)、横浜から馳せ参じた早武正博氏、地元新潟現会長の小山功氏、小林亨氏、矢部保氏(以上60回)、更に(61回)泉谷昂氏、佐藤建一氏の十一名である。何れも前会長の西山秀夫氏や、現名誉会長の奥山實氏ほか諸先輩からテニスの技術と試合に勝つための闘争心を徹底的に教え込まれ、母校の名誉を双肩に担つて他校と戦つてきた面々である。試合前日の体育館での壮行会では、全校生

徒から応援歌で激励され、必勝の使命感に、若き血潮をたぎらせたものである。

勝見・初代キャプテンの発声で乾杯の後は、五十余年の歳月の長さがあつたという間に埋まり、みな十七・八歳の若者に戻つて、思い出話に花が咲いた。



▼関東甲信越大学対抗戦で新潟大学の中心選手として二年連続優勝二回・通算四回▼国体の県代表としての多年にわたる参加等。

近年は、また、好い歳相応それなりに無理することなく、日本で生まれたソフトテニスを生涯スポーツとしてこよなく愛好し、趣味悠々、会心のプレーを楽しみ、健やかな生活を維持し、ソフトテニスの普及向上に寄与しているところでもあります。

創部 80 周年 記念イベントを終えて
 青山バスケットボールクラブ
 会長 和澄 孝男 (83回)

これらすべて歴代先輩からの伝統の継承の賜物である。高齢を迎えた今、現役後輩諸君に、この伝統的青山魂の継承こそを望みたい。「紅の旗ゆくとこころ月の夜に桂も折らん。」いくつになつても、この応援歌は快い。我々が贈られたこの応援歌を、そつくりそのまま、現役の若い諸君に贈りたい。

青山ソフトテニスクラブのますますの強化と発展を祈念して、校歌を、特に「青陵健児の芳しき誉を挙げんいや高く」を唱和して再会を約し解散した。

平成十七年度 青山ソフトテニスクラブの主な事業計画

朝練習▼青山ソフトテニスクラブ親睦大会(八月十四日)▼市民大会等の参加▼会報の発行▼名簿の作成・管理

八月十四日、記念イベントの本番を迎えた。正午、母校の新体育館には全国から駆けつけたOB・OGがぞくぞくと集結した。イベント内容は、もう一度コートに立ちよう! ”確かにここに青春があつた!”の合言葉で企画された『マスターズ・バスケットボール』である。各世代毎に編成されたチームで試合を行なうのである。真新しいシューズにヒモを通して登場する者もいた。珍プレーや迷?プレーが続出する中、コートに立つて流す汗は、まさに学生時代のそれと同じものであつた。また、フリースロー大会では、何十年ぶりにボールにふれ、リングに向かう集中心の中でしばし青春にふれた者もいたであろう。

同日、夜六時からホテルイタリア軒にて記念パーティーを開催した。



代の顧問・コーチを招待し、約一五〇名のOB・OGが出席して盛会のうちに会は進行された。会場では、記念Tシャツやスポーツタオルも販売され、あちこちで懐かしい思い出話に花が咲いていた。時の経つのも惜しまれる時間と空間であった。

近年、バスケットボールはますます多くの子どもたちに愛好され、その裾野をひろげている。これからも、バスケットボールをこよなく愛する同志が、このクラブを継承していつてくれるものと信じている。当クラブは、その長年にわたる歴史を誇りに、今後も多くの先輩と後輩との交流の場として、また、新潟高校(青山)に学んだ者の心の拠りどころになるような存在(クラブ)でありたいと考えている。



合格状況

主な国公立大	合計	現	役
北海道大学	13		10
東北大学	23		19
千葉大学	17		13
東京大学	8		7
東京工業大学	5		5
首都大学東京	11		9
東京学芸大学	4		4
東京外語大学	1		1
一橋大学	5		3
新潟大学	106		81
金沢大学	5		3
名古屋大学	1		1
京都大学	2		2
主な私立大	合計	現	役
早稲田大学	55		34
慶應大学	38		18
上智大学	10		5
青山学院大学	15		11
中央大学	44		22
法政大学	28		22
明治大学	38		23
立教大学	18		7
東京理科大学	54		43
日本大学	13		9
自治医科大学	0		0
同志社大学	4		2
立命館大学	26		18

大学入試結果

全日制の卒業生は三九〇名で、例年より若干少ない人数でしたが、卒業式当日に長谷川会長の前で板谷弘毅君が元氣良く宣誓し、入会しました。

今春の入試結果の主な特徴をいくつか紹介します。

①合格率がさらに上昇
②難関大合格者数が回復
③理系の合格率が上昇

以上3点が本校の入試結果の特徴と言えます。

①については、センター試験科目が五教科七科目化する中で、生徒はしっかりと学習して

国立大に挑戦した結果と思われず。また、前年度同様に新潟大学の合格率が四〇%台を超えたため、関東圏の大学が難関大も含めて合格率が四〇%台を維持できたことによると思われず。

②については、担任の先生方と教科担当の先生方の熱心な指導に込められた力で、生徒が着実に力をつけたこともあり、善戦したと言えます。東京大学七名(昨年三)、一橋大学三名(同二)、東京工業大学五名(同二)というのはほぼ平均値を回復したといえます。

③については、理系は医学部医学科や薬学部薬学科等合格率が低い学科があるので、合格率が

例年低いが、今年の理系は男子の合格率が74.7%と飛躍的上昇したため、理系全体でも75.7%と向上しました。

①合格者数がここ八年間で最高
②難関大学でも合格者数増加

①については、国立大との併願や、難関私大との併願私大がうまく行き、合格者は前年度を上回りました。受験大学数は最近の十年では約五〇〇であったものが、今年は約八〇〇と大きく増加しました。これに比例して合格者数がここ六年間で最も高くなりました。

②国立大学と同様に難関大学の合格者数も増加し、慶應大学十八名(昨年十)、早稲田大学

三十四名(同二十二)、東京理科大四十三名(同十八)と前年度を大きく上回りました。

また、卒業後のことを見据えて女子私大を志望し、入学した生徒が増加したことも特徴と言えます。

最後に、今年度の三年生からは新課程入試が始まり、大学入試センター試験にリスニングテストが加えられたり、入試日程が変更になったりと大幅な変更がなされます。今後、生徒共々気持ちを引き締めて進路指導にあたっていきたいと思っています。

平成 17 年度新潟高等学校部活動県総体成績一覧表

1	陸上競技部	男子走り幅跳び 男子 400m 女子 800m 100mH 400mH 男子 4×400mR	優勝 5位 5位 6位 6位 7位	渡辺 貴司 田端 宏樹 野崎 公美子 堀 綾子 笠原 あかり 加藤 知基・渡辺 貴司 田端 宏樹・山田 智治	(北信越大会出場)
2	サッカー部	ベスト16			
3	卓球部	男子団体 男子シングルス 男子ダブルス	ベスト4 4位 2位	籠島 隼介 籠島 隼介・斉藤真之介	(北信越・全国大会出場)
					(北信越・全国大会出場)
					ベスト32 前野 峻・五十嵐 陽介 (中部日本大会出場)
4	柔道部	男子個人-100kg級	2位	枝村 峻佑	(北信越大会出場)
5	剣道部	男子団体・女子団体	1回戦		
6	空手道部	男子団体形 女子団体形 女子団体組手 男子団体組手	2位 3位 3位		(北信越大会出場)
7	ソフトテニス部	男子団体 女子団体	ベスト8 2回戦		
8	テニス部	男子団体 女子団体	1回戦 2回戦		
9	フェンシング部	男子団体 女子団体 男子フルーレ 女子フルーレ 男子サーブル	2位 優勝 3位 優勝 優勝		(北信越・全国大会出場)
					(北信越・全国大会出場)
					(北信越・全国大会出場)
					(北信越・全国大会出場)
10	ボート部	男子団体舵手付クォドルプル 男子団体ナックルフォア 女子シングルスカル 女子ダブルスカル	4位 3位 2位 3位	山川 里美 野島 彩花 多田 幸子	(北信越大会出場)
11	山岳部	男子団体	優秀校		
12	バレーボール部	男子	3回戦	女子	2回戦
13	バスケットボール部	男子	2回戦	女子	2回戦
14	ラグビー部		3位		
15	バドミントン部	男子団体	ベスト16	女子団体	ベスト8
16	弓道部	男子団体	3位	井澤 隆弘・早川 聖哉・渋谷 亮太・渡辺 博之 戸田 憲人・小西 正太・高田 省吾	(北信越大会出場)
		女子団体	1回戦		
		男子個人	決勝進出	井澤 隆弘・渡辺 博文・小山 航	
			準決勝進出	川見 真人・早川 聖哉	
		女子個人	準決勝進出	牛窪 彩乃	
17	野球部	春季地区大会	2回戦		
18	水泳部		6月24～26日開催		

職員の異動

(平成十七年四月)

全日制(退職 転出 転出先)

教頭 島野弘通 阿賀黎明 校長

教諭 福嶋一勢子 新潟商業

君山本久 県教育庁文化行政課

君伸一郎 中条

田邊信男

阿部直人

宮田佳則

薄一俊

青木茂則

非常勤講師 逢坂勝也

樋浦卓嘉

江口律子

高田南城

卷

柏崎総合

新潟江南

退職

教頭

伊狩 淳

田澤彰夫

新潟工業

万代

井村雅人

打越彰子

大瀧洋一

退職

新潟中央

渡辺建夫

新採用

吉川

石川朝洋

押木 洋

渡邊孝弘

室本 明

布施暢子

中村有里

常勤講師

皆川敬志

野口明夫

川崎悠子

常勤講師

打越彰子

常勤講師

打越彰子

非常勤講師

木村澄枝

本間桂子

浅野清一

遠藤洋次郎

港湾課

参事

参事

全日制(転入 前所属)

教頭

石川朝洋

押木 洋

渡邊孝弘

室本 明

布施暢子

中村有里

教頭

高野 大

桑原 力

皆川敬志

野口明夫

川崎悠子

常勤講師

打越彰子

非常勤講師

木村澄枝

本間桂子

浅野清一

遠藤洋次郎

港湾課

参事

参事

事務局より

●人事新報社について●

今年三月にハガキで、会報を送付している皆様には、人事新報社と青山同窓会が全く関係がない旨の連絡を差し上げたところですが、その後、名簿購入の催促のハガキが届くなどの動きがまだあるようです。くれぐれもご注意下さい。

一〇〇〇字の間で書いて下さるようお願いいたします。一〇〇〇字以上ですと紙面の関係で載せられなくなりしますのでよろしくお願いたします。

◇会費納入のお願い◇

昨年度の同窓会決算をご覧になってわかるように、年々会の運営が苦しくなってきました(会費納入者の減少)。そこで、来年度からは原則として会費を納入して頂いた方にのみ会報を送付することを計画しています。(現在：会報送付者約四〇〇〇名、会費納入者約三〇〇〇名です。)会費の納入がまだお済みでない方は納入にご協力下さい。

◇会報へ寄稿される方へ、原稿の字数のお願い◇

原稿の字数は、八〇〇字から



◇通信制閉課程式について◇

五〇余年の伝統がある新潟高交通信制が、県の高専学校再編整備計画に基づき、今年度でその歴史の幕を閉じることになりました。十一月十二日(土)新潟高校で閉課程式が行われました。

平成16年度 青山同窓会会費納入者追加分

(10月1日より3月末まで納入のもの) "1口1,000円。なるべく2口以上でお願いします。"

納入先：郵便振替口座 00650-7-4455 青山同窓会

- 41回S9年 五十嵐 富郎
- 44回S12年 坂井 健一
- 45回S13年 稲葉 敏郎
- 46回S14年 伊狩 章男
- 47回S15年 小熊 幸男
- 48回S16年 杉山 弘治
- 48回S16年 中川 敬康
- 伊藤 正太郎
- 小川 清常
- 49回S17年 工藤 弘安
- 見定 民雄
- 51回S19年 河路 渡夫
- 田中 秀夫
- 52回S20年 藤田 禮一
- 村山 玄二郎
- 湯木 昭二郎
- 53回S20年 阿部 靖朗
- 飯島 健一
- 板津 興司
- 54回S21年 福島 鉄一
- 佐藤 壮一
- 55回S22年 中山 昌鷹
- 56回S23年 朝比奈 和昭
- 栗古 寺嘉
- 中島 賢之

- 松尾 直樹
- 58回S25年 笠原 志克
- 風間 庫一郎
- 神田 俊彦
- 佐藤 皓
- 59回S26年 伊佐 修一
- 栗林 貞一
- 山辺 治健
- 種岡 八郎
- 藤田 泰彦
- 60回S27年 伊狩 三喜男
- 石川 紀一郎
- 杉野 剛博
- 高橋 明男
- 田部 幸夫
- 富山 夫弘
- 松尾 克己
- 水野 哲直
- 崎芳 良一
- 山崎 誠
- 61回S28年 石見 達夫
- 藤敏 道夫
- 52回S29年 岩田 亮司
- 岩渕 眞望
- 木村 恒夫
- 熊谷 池治
- 小近 藤 賢之

- 鈴木 勉
- 丹羽 重夫
- 皆川 輝敬
- 宮本 敬介
- 63回S30年 穴澤 祐哉
- 安藤 和子
- 小金 博之
- 佐藤 昌生
- 高橋 英昭
- 二階 美昭
- 横田 坦司
- 64回S31年 木佐 茂司
- 西野 貢
- 庭山 暢彦
- 早川 周作
- 星野 邦俊
- 65回S32年 加藤 純一
- 金巻 啓司
- 河路 明夫
- 66回S33年 佐藤 野敏
- 水崎 耕一
- 67回S34年 小川 史男
- 桜井 晃博
- 鈴木 信操
- 山口 健
- 渡辺 操
- 67回S34年 石井 幹雄
- 石田 瑞明
- 大塚 明

- 彦夫 章
- 英恒 真理男
- 桐村 尚男
- 68回S35年 小島 專
- 69回S36年 青木 利正
- 阿内 山尚
- 岡白 川英二
- 70回S37年 加藤 邦紘
- 柴高 野忠
- 出来島 義精
- 丸山 正政
- 三國 政坦
- 渡部 介
- 71回S38年 伊藤 登彰
- 大小 沢和
- 小関 林正
- 高橋 内俊
- 竹羽 生清
- 72回S39年 追手 真由
- 73回S40年 小林 桂子
- 74回S41年 今川 俊秀
- 小高 橋節
- 高橋 節子
- 川原 諒雄
- 小笹 勝

- 原廣 瀬
- 75回S42年 石大澤 公俊
- 76回S43年 尾加 澤明
- 柄沢 谷洋
- 77回S44年 石川 銳律
- 猪股 遠藤
- 78回S45年 青木 孝祐
- 79回S46年 猪岡 裕均
- 80回S47年 伊藤 俊輔
- 81回S48年 神野 尚

- 松崎 美郎
- 82回S49年 澤田 祐明
- 83回S50年 植木 秀功
- 85回S52年 大野 茂徹
- 87回S54年 小野 和宏
- 88回S55年 大冢 毅
- 89回S56年 相場 惠美子
- 90回S57年 儀同 政宏
- 92回S59年 河内 康志
- 99回H3年 吉澤 いと
- 103回H7年 伊藤 永朗